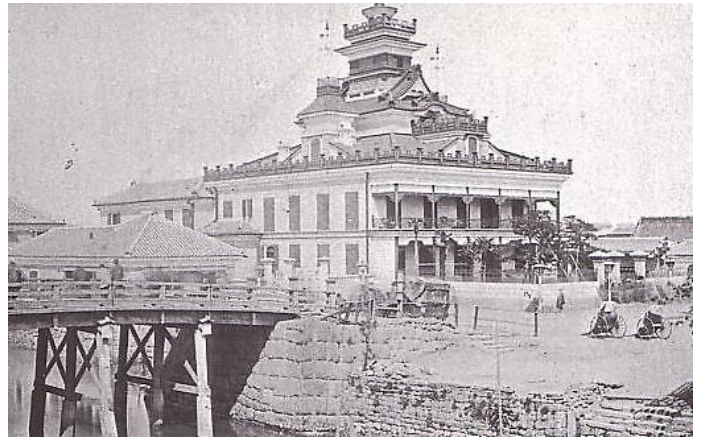


## 渋沢栄一との出会い

市民学芸員 江良 和子



藍を収穫する様子(難波田城公園内)



日本橋兜町に建てられた第一国立銀行初代本店

2月から始まった大河ドラマの「青天を衝け」。  
主人公は埼玉出身の渋沢栄一ですね。

私をはじめ渋沢栄一を知ったのは、中学の時でした。道徳の授業で渋沢が書いた「論語と算盤」を教わりました。その後、銀行に勤めると、入社研修で渋沢の業績を学びました。

日本史上最大の変革期であった、幕末から明治に至る混乱と開化の時代に生を受け、よりよき社会の実現を目指した偉大な経済人が渋沢栄一です。「週刊日本の100人 No.053 渋沢栄一」を参考にしながら、あらためて渋沢の生涯をまとめます。

1840年、藍玉商で成功した裕福な農家に生まれた栄一は、まるで武士の子どものように、幼くから古典を学び、武道を学び、さらに商売の基本も仕込まれました。そして、ペリー来航以来揺れ動く幕末の時代の風を受けながら青春を過ごしました。1863年、23歳の時に、<sup>そんのうじょうい</sup>尊皇攘夷の志に燃える同志とともに、高崎城乗取りや横浜焼き討ちを計画しました。しかし、時期尚早として計画は中止になり、故郷を<sup>しゅつぽん</sup>出奔しました。

その後、栄一は、ひよんな巡り合わせから、一転

し、一橋<sup>よしのぶ</sup>慶喜に仕えることになりました。さらに、慶喜が将軍位に就いたために、幕臣となりました。

1867年、パリ万博へ幕府使節として派遣された徳川<sup>あきたけ</sup>昭武(慶喜の弟)に随行しました。栄一はフランスで近代資本主義と出会い、「銀行」や「株式会社」の存在を知りました。ヨーロッパの圧倒的な豊かさを築いているのは、小さなお金が集まり大きな資本となり大事業を動かす原動力となる、銀行や株式会社の仕組みと理解したのです。

幕府が瓦解した日本に帰国した栄一は、1869年、大隈重信の勧めで新政府に入り、<sup>かいせいがかかり</sup>改正掛を設置して様々な改革に取り組みました。

1873年、33才で大蔵省を退官し、念願の第一国立銀行(現みずほ銀行)を設立し、ここを本拠に多くの企業の創設に関わりました。

実業界の一線を退いてからも、1931年に91才で<sup>せいぎよ</sup>逝去するまで、福祉や民間外交といった非営利事業に一身を捧げました。民間外交ではアメリカとの友好を重視しました。

令和6年(2024)、栄一は新一万円札の肖像画になります。それまで元気でいて、栄一に出会えればと思っています。

市民学芸員のページ \*このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちょっと拝見 みどころ紹介

常設展シリーズ③ 『街づくりと圃場整備』

令和元年度に更新された常設展示室の現代コーナーでは、平成の出来事が追加された年表とともに新たなパネルも設置されました。その一つが昭和40年代から平成にかけて行われた富士見市内の街づくりと圃場整備を紹介したパネルです。

説明文には、野方と呼ばれる台地にあたる地域に昭和52年に開設されたみずほ台駅を中心とした街づくりのことが書かれています。また、平成5年開設のふじみ野駅を中心とした街づくりのこともふれられています。一方、里方である南畑地区が、圃場整備により機械化・大規模化に適応した水田地帯となったことも紹介されています。なお圃場整備とは、農地の区画を整理するとともに、用水路、排水路、農道、暗渠排水等の整備を行い、生産性の高い農地をつくる公共事業をいいます。



パネルに添付されている写真は3枚あります。みずほ台駅開業直前

の駅東口周辺から水子貝塚方面を見た風景や、平成5年頃に撮影された畑の広がり、かつての勝瀬原地区を空から見た様子です。そして、今でも広がっている南畑地区の大区画水田の写真もあります。これらの写真から、この間、市内が様々な風景を持つ新しい姿に生まれ変わってきたことがわかります。(広報担当)

おもしろ・なつかし体験⑥8

コロナ禍に想う

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

日本だけではなく、世界中がコロナ禍の影響を受けていますが、「不要不急の外出自粛」と言われると、何か寂然としない思いもあります。

本来、このコーナーは、私たち市民学芸員が難波田城公園・資料館での体験学習やイベントなどをご紹介・ご報告することになっていますが、多くのイベントが縮小又は中止となってしまいました。

人気の「ちょこっと体験」も、消毒とマスク着用の徹底は当然として、開催日を大幅に減らし 定員制を導入し、更に極力、館の職員だけで対応するなどし、何とか継続しているのが現状です。

たまたま12月26日(土)の「ミニ正月飾り作り」を覗いてみましたが、何組かの親子連れの皆さんが楽しそうに笑顔で「飾り作り」に取り組んでいました。

最近、テレワークによる在宅勤務やオンライン飲み会など、デジタル化による生活様式の変化とその定着を肯定するような報道が聞かれます。

デジタル化による「効率向上」も必要かも知れませんが、実際に人と人とがふれ合い体験する中で、人生を豊かにしてくれる「ちょこっと体験」のようなイベントも、やはり大切にしたいものです。

私たち市民学芸員も今は「自粛」を徹底していますが、コロナ禍が収まり、従来のようにご来園の皆さんとご一緒にイベントを楽しめる日が来ることを待ち望んでおります。(小山内 鏗爾)



いつかこの「ちょこっと体験紹介コーナー」も更新ができればと願いつつ…。

## 人の創ったもの★人の使ったもの

このコーナーでは、地元に関するものを紹介します。今では使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

なんばた

### 難波田氏の描いた絵画

令和3年3月13日(土)～6月13日(日)の間、企画展「難波田氏とその時代」を開催します。難波田氏出現のきっかけとなった承久の乱(1221)から800年。この機に難波田氏の出現から近現代までその子孫の活躍を追います。ここでは、ご遺族の方から寄贈していただいた親子2人の画家の作品を紹介します。

#### 難波田龍起(1905-1997)

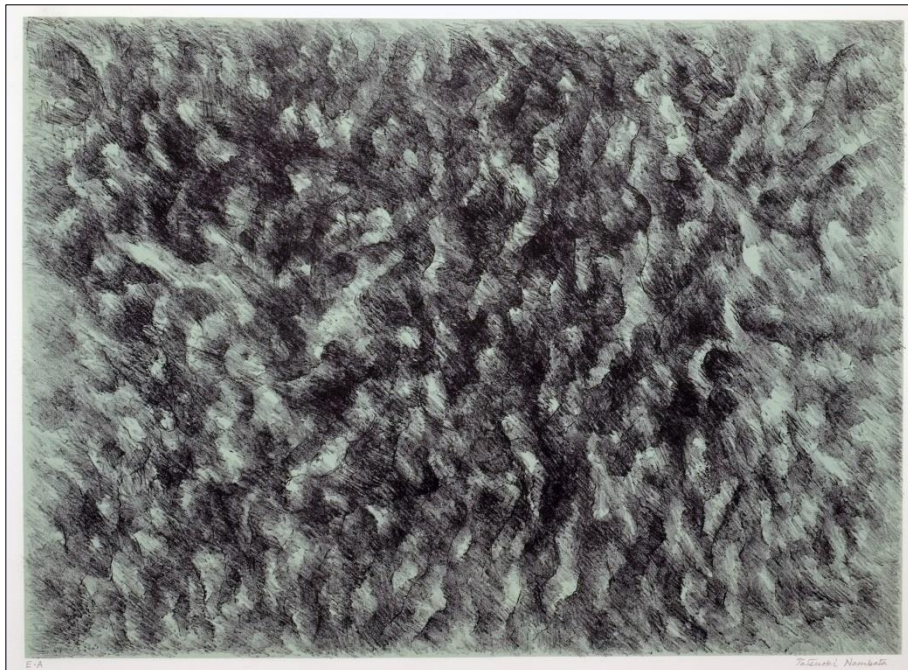
北海道旭川生まれ。生まれた直後、屯田兵だった父、憲欽の除隊に伴い東京に移り住みます。その家の裏隣が、詩人、彫刻家など様々な顔をもつ高村光太郎のアトリエでした。

龍起は光太郎の影響もあり詩や絵画の道に進むこととなります。当初は具象画でしたが、年を経て抽象画の道へと進みます。抽象画も直線を用いたものから曲線も用いたものへ、さらに晩年は色相を活かした作品を手がけるようになりました。

寄贈された作品は曲線が人のようにも見える作品です。リトグラフ(石版画)ですが、作品の右隅に「E・A」とあります。これは「Epreuved' Artiste」(仏語：作者証明などの意)の略語で、本作品は作者自身が刷ったものだと分かります。

#### 難波田史男(1941-1974)

史男は龍起の次男です。32歳と若くして他界しますが、作家生活10年の間に2,000点を超える作品を遺しています。父龍起は画家史男の存在は「脅威ですらあった」と評していません。作品はペンによるもの、ペンと水彩によるもの他に、本作のような油絵も手がけています。そして水や太陽を対象とした作品を数多く遺していま



難波田龍起《凝結》リトグラフ 55.0×40.0cm 1984年



難波田史男《舟》油彩 52.8×45.6cm 1973年

す。本作品は史男の晩年のものです。この作品からは海に舟と人がたたずむ様子が想起されます。

本企画展では、前期・後期でそれぞれの作品を展示します。本物の迫力をご覧になれる機会ですので、是非足をお運び下さい。(田ノ上 和宏)

## ＊ ＊春のイベント予定＊ ＊

### 開園・開館 20周年記念イベント

#### ●春期企画展「難波田氏とその時代」

難波田氏の出現から近現代の子孫の活躍までを紹介  
します。

期間／3月13日(土)～6月13日(日)

場所／特別展示室(入場無料)

#### ●関連イベント

#### 講演会「戦国時代の難波田氏」

戦国時代研究の第一人者に難波田氏を語っていただ  
きます。

とき／3月20日(土)午後1時30分～3時

場所／講座室 定員／24人(無料、申込順)

講師／黒田基樹氏(駿河台大学教授)

申込み／3月2日午前9時から電話で

#### 「春の古民家コンサート」

とき／3月27日(土)午後2時～2時30分

場所／旧大澤家住宅 定員／30人(無料、申込順)

歌・演奏／吉岡しげ美氏(作曲家。旧姓難波田)

申込み／3月2日午前9時から電話で

#### 講演会「北海道になぜ難波田川があるの？」

明治時代に北海道開拓に活躍した難波田憲欽を紹介  
します。

とき／4月17日(土)午後1時30分～3時

場所／講座室 定員／24人(無料、申込順)

講師／山本長春氏(市民学芸員)

申込み／4月3日午前9時から電話で

#### ●なつかしの自転車紙芝居

とき／5月5日(水)

①午前11時～ ②午後2時～ (各回30分程度)

場所／旧金子家住宅 対象／幼児～大人

内容／昔ばなしの紙芝居 参加費／無料

#### ●田んぼ体験隊(全7回)

種まきからもちつきまで年間を通して活動します。

定員／15組(1組4名以内)

申込み／4月3日(土)午前9時から電話で

※詳細は広報「富士見」4月号をご覧ください。

#### ●藍染め入門講座(全6回)

かつて埼玉県では藍産業が盛んでした。藍の栽培か  
ら各種の染めまで、年間を通して活動します。

定員／6名

申込み／4月3日(土)午前9時から電話で

※詳細は広報「富士見」4月号をご覧ください。

#### ◆ちよつ蔵市(難波田城公園活用推進協議会主催)

3月28日(日)草もち

4月25日(日)かしわ餅

5月はお休み

※なお、ここに掲載されたイベント等も含めコロナ  
の感染状況などにより変更となる場合があります。  
最新の情報は資料館公式サイト(下記URL、QRコード  
よりアクセス可)をご覧ください。

### 資料館からのお知らせ

#### 《施設の整備を進めています》

現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、  
ご来園のみなさまに通常どおりには展示やイベント  
を楽しんでいただくことができませんが、以下のよ  
うに施設の整備を進めています。コロナ禍が落ち着  
いた後、快適にご利用いただけるよう準備していま  
す。ご来園をお待ちしております。

##### (1)東門駐車場にサイクルラックを設置しました



駐輪場を広げ、スポー  
ツタイプの自転車をチ  
ェーンキー等で固定で  
きるサイクルラックを  
設けました。

##### (2)すべてのトイレが洋式になりました



園内3カ所のトイレにある  
和式便器をすべて暖房便座  
付きの洋式に改修しました。  
また、多目的トイレはシャ  
ワートイレに改修しました。

#### 〈開園時間変更のお知らせ〉

4月から9月の間、公園の開門時間は午後6時にな  
ります。資料館と古民家は午後5時までです。



富士見市立難波田城資料館  
〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665



[https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi\\_shisetsu/02shisetsu/shiryokan/nanbatajo/index.html](https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryokan/nanbatajo/index.html)

◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)

資料館公式サイト